

助成活動実績報告書

企画名	食とエネルギーの地産地消を考える
団体名	おかやまエコマインドネットワーク

①活動の目的について

東日本大震災による原子力発電所の事故があつてから、特に将来のエネルギーについて考えるようになりました。将来の世代に負をもたらないエネルギーの選択が出来るのであればその選択肢のひとつではあるが自然エネルギーについて学んで考えることのできる活動を展開しました。

地域でエネルギーや食を生産することが環境への負荷が少ないといえます。私たちの生活スタイルが環境を意識し行動する事を体験や講座を通して親子等で学び実際の行動につなげていく。

②内容について（学習会、集会などは開催日や内容、参加者数など。設備・物品購入などの発注、納品、竣工、支払いなどの案件に関わる事実の掲載）

平成24年7月22日（日）きらめきプラザ 会議室

参加スタッフが事前学習として自然エネルギー（小水力、バイオマス発電）について学習
高野氏の書籍を参考に「人は100wで生きられる」生活ができるのかについて討論を行なった。

平成24年8月21日（火）美作梶並地区への自然エネルギーエコツアーの実施

参加者45名 岡山駅を出発し美作市久賀発電所（外部より見学）、梶並発電所（内部外部見学）
梶並地区へ移動し小学校跡地で薪割り体験、倒木作業の見学、バターナイフ作りをした。

地元施設「やまゆり苑」にて地元主婦グループの手料理で昼食。

岡山県企業局職員より環境学習、小水力発電、太陽光発電など企業局の所有の施設説明を聞く。

湯郷温泉美春閣にてバイオマスによる給湯設備について説明を受けたあとペレットボイラーの見学。

平成24年10月13日（土）14日（日）高野雅夫先生を講師にワークショップ、講演会実施

13日 岡山市建部町をベースに地元小水力発電の適地を周り実際に小水力を利用して模型で
発電の実際を行なった。その後参加者でワークショップを行い「1000年続く地域と暮らし
を考えよう」のテーマでビジョンをグループでまとめた。

参加者33名

資料チラシ別添

14日 オルガ スカーレットにて10時～12時

「自然エネルギー技術の研究開発と地域社会への導入」テーマに講演会

③この活動によって達成された成果

自然エネルギーについて学習をすることでそのエネルギーが身近にあり利用できることを理解しました。バイオマスの自然エネルギーは50年ほど前にはこの美作市梶並地区では当たり前利用し循環していたがエネルギーが安価で手に入る石油に代わり利用されなくなり森林が荒廃していったことはこの土地だけに限らず日本全体で同じことがあったと想像できる。この美作市では地域おこし協力隊と地元住民が協力しあいバイオマスエネルギーの有効活用をして地域活性化へつなげている実態を知ることができた。

また、岡山県企業局の協力によりダム式の久賀発電所と水路式で既設の砂防ダムを利用した梶並発電所を比較した。費用対効果の現状を学ぶことができた。

自然エネルギーの小水力発電,バイオマス利用のエネルギー供給を実際に見学や体験することでエネルギー供給を地域で育てることをそこで生活している人が利用することで循環していくことに気づきがあった。岡山県の北部においては小水力や森林に恵まれそれらをエネルギーとして活用できることが期待され,参加者は理解を深めた。

参加者がバスの移動や共に活動することで交流をもち環境意識の高まりを感じた。

④今後の計画・展望について

次年度にもひき続き「食とエネルギーの地産地消」をテーマに活動を継続して行きたい。親子で将来のエネルギーについて考える場を提供していきたい。

自然エネルギーの中でも小水力発電をテーマに活動の展開を計画している。

自然エネルギーはいままで気付かなかった身近にあるエネルギーの存在を知り活用できることを体験して化石燃料等に依存しないライフスタイルの提案をしていきたい。

⑤写真等参考資料添付（事業により購入した設備・物品等や会議開催の様子など、活動内容が伝わる写真等を添付してください。デジタルカメラの場合、データもご提出ください。）



↑ 8/21 エコツアー参加者バスの中



↑ 8/21 梶並発電所内（岡山県企業局）



↑ 8/21 小学校跡地でのナイフ作りワークショップの先生方



↑ 8/21 美春閣ペレットボイラー内部見学



10/13 高野先生と参加者で小水力発電体験



10/13 高野先生コーディネートでワークショップの様子